

日本書道史

第4講 「三筆と中唐の書法」

住川 英明 (岐阜女子大学)

第4講 「三筆と中唐の書法」

【学習到達目標】

- 空海の代表的な書作品を挙げて、その書風の特徴について具体的に説明することができる。

第4講 「三筆と中唐の書法」

1. 遣唐使による唐文化の流入

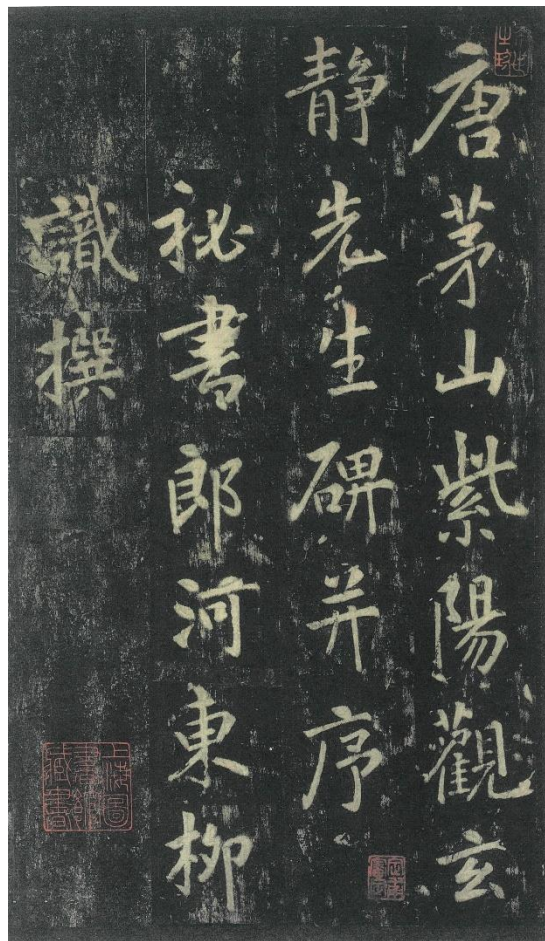
- 遣唐使として唐に渡り、多くの文物を請来した留学生・留学僧の果たした役割は大きい。「三筆」として書を称えられる3人のうち、空海・橘逸勢は、それぞれ留学僧・留学生である。
- 中唐の書風が多様化していたことから、わが国へも様々な書風が流入したことが想像できる。

第4講 「三筆と中唐の書法」

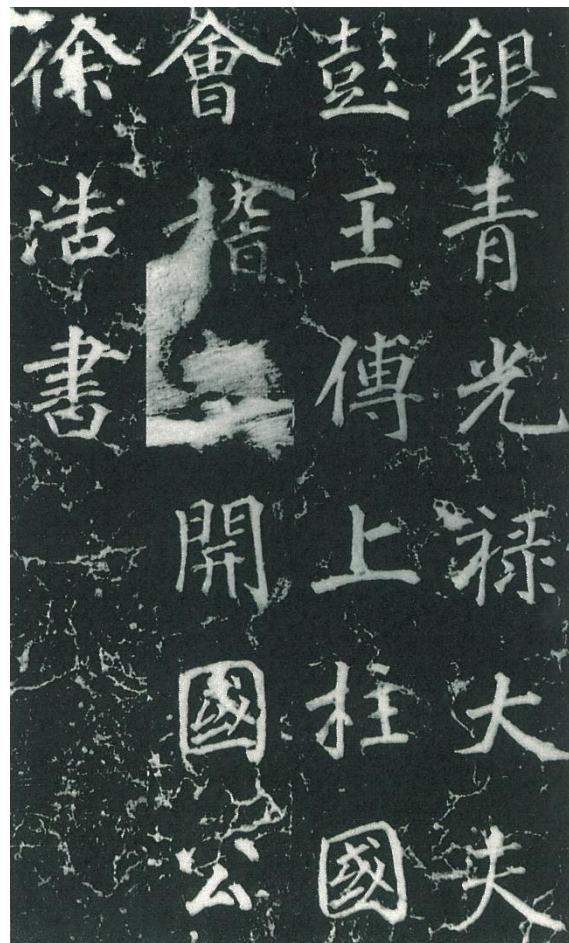
2. 中唐の書における新旧の諸派

- 顔真卿は、王羲之の書に立脚しつつ、力感のある雄渾な書をかき、柳公権などの追隨者を生み出した（「革新書派」）。
- 空海は、入唐前に李邕の書などを学んでいたが、渡唐後は徐浩の書や張従申・沈伝師といった王羲之の書を規範とする旧派の書に触れていたようである。

第4講 「三筆と中唐の書法」



張從申 《李玄靜碑》 (部分)



徐浩 《不空和尚碑》 (部分)

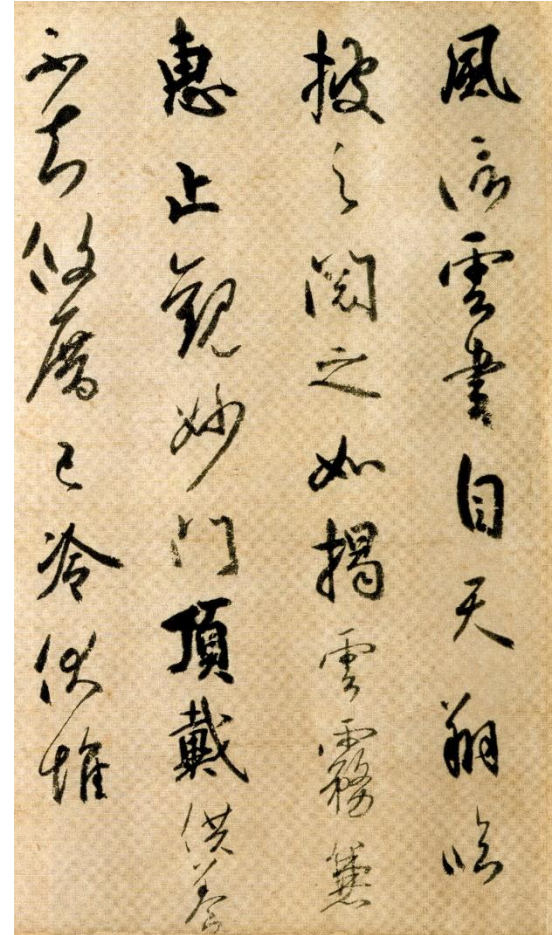
第4講 「三筆と中唐の書法」

3. 「三筆」と空海書の多様性

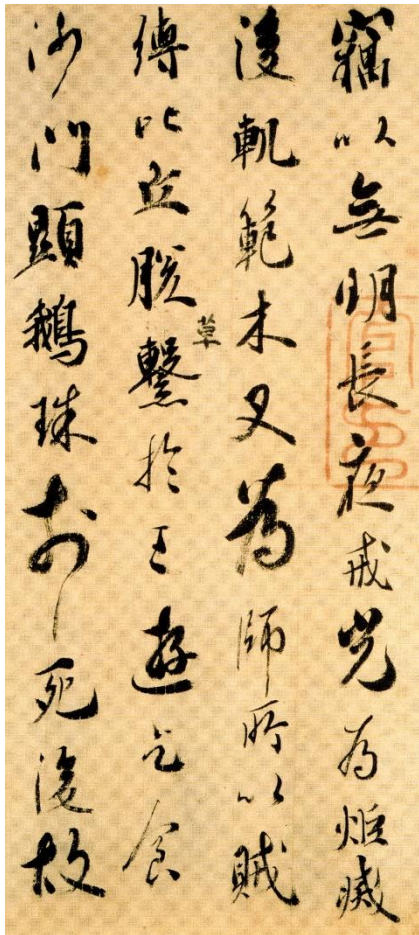
- 現代において空海の書の評価は高いが、その独自性がどのような点に認められるかという点については、いまだ確かな指摘がない。
- 空海の書の風趣はきわめて多様であり、容易に焦点が定まらない。書風の成立から展開までの歩みを、さらに細かく見定めていく必要がある。

第4講 「三筆と中唐の書法」

空海《風信帖》（部分）



嵯峨天皇《光定戒牒》（部分）



課 題

1. 空海《風信帖》の書風について、徐浩や張従申等による中唐の書跡と関連づけて、説明しなさい。

第4講 「三筆と中唐の書法」

【学習到達目標】

- 空海の代表的な書作品を挙げて、その書風の特徴について具体的に説明することができる。
-

日本書道史

第4講 「三筆と中唐の書法」

住川 英明 (岐阜女子大学)